

グローバル規模のサステナビリティプログラムを開始

ランコム

ランコムは3月22日、環境と社会をめぐれる課題が拡大する今、グローバルなサステナビリティプログラム「Caring Together for a Happier Tomorrow」を立ち上げ、持続可能性と社会的包摂をめぐれる多様な課題に向けた「ランド」の取り組みをスタートした。

グローバルブランド・具体的には、生物多様性を保護や世界各国の弱い立場にある女性たちへの支援など、ユーザーが持つ「85年前の創業以来、ブランドを支えるコアバリュー」を代表するラグジュアリー化粧品ブランドとして、世界を代表するラグジュアリー化粧品ブランドとして、幸福で持続可能な未来を目指す。地球と社会をめぐれる多様な課題に取り組む責任がある。最も喫緊の課題に対する取り組みを通して、世界規模の改革を積極的に進めている。



生物多様性の保護、保全、回復であり、取り組みのスタートとして、サステナブルなフェアトレードの推進と成分の調達手段によりブランドの環境フットプリントを軽減すると同時に、グリーンケミストリー(環境配慮型化学)とバイオテクノロジーの積極的な活用を通して天然資源の使用量を減らす取り組みを進めていく。また自社製品のパッケージにも、これまでに以上によりサイクルリサイクル素材を使用。さらに、関連する主要機関への支援を通して生物多様性の保護プロジェクトも行う。

「Write Her Future」(女性たちが綴る未来)と名付けたブランドの慈善活動では、教育、メンタリング、起業家精神を学ぶ機会の提供を通して女性のエンパワーメントを支援していく。

持続可能な製品パッケージも下火となり、コロナ禍の昨年4月以降の新規参入は大幅に減少しているという。唐揚げは出前館で注目を集めた。コロナ禍でデジタライズ需要が高まっていることもあり、以前よりも、現在

018年以降のガラス使用量を250トン削減し、これはルーブル美術館のピラミッド2つのガラスを上回る量に相当する。さらに、各国の販売拠点に専用の回収ボックスを設置し、製品の空き容器のリサイクルを促進している。中国では、2020年に200万個を超える空き容器の回収・リサイクルを達成した。また販売拠点で使用するベースのサプライヤーがエコベースのコンセプトによるもので、製品ディトレイなどすべての仕器で使用するプラスチックの量を削減するか、100%再生プラスチックを使用している。

世界の文盲人口が7億7400万人、うち3分の2が女性たちといわれる中、2017年以降、

グローバルサステナビリティキャンペーンを始動

国際慈善プログラムを立ち上げ、女性の文盲問題に取り組みできた。現在までにプログラムが支援した女性は13カ国で2万3000人以上に達し、さらに2022年までに5万人規模の支援を目指して活動を展開していく。

「未来を生きる子どもたち」の活動は、日本から提案・発信していく。

「未来を生きる子どもたち」の活動は、日本から提案・発信していく。

「未来を生きる子どもたち」の活動は、日本から提案・発信していく。



唐揚げブームの到来

私のH&B日記

最近、テイクアウトの唐揚げ専門店が急増している。ファミリーレストランや居酒屋でお酒を飲むという人も多いため、唐揚げは宅飲みのおつまみにもぴったりだ。

唐揚げは、子どもから大人まで幅広く愛されおり、惣菜としてだけでなく、おやつとしても、唐揚げビジネスの伸長を読み取ることもできる。唐揚げをメインとして提供するイートイン、テイクアウト両方の店舗を対象とした唐揚げカテゴリーの2020年の市場規模は、前年比23.1%増を見込んでいる。

唐揚げブームの到来は、前より出前館(注文できる店が増加したが、その中でも唐揚げ専門店)の数はかなり多いと空前的な唐揚げブームはいつまで続くのか。唐揚げが大好きな私としては、いつまでも続きたいと思う。(上)

国際的イニシアチブより「SBT」認定を取得

コーセーは「このほど、2030年に向けたグループの温室効果ガス(GHG)削減目標を従来の28%から35%へ上方改定し、国際的イニシアチブ「SBTi」(Science Based Targets)に認定された。

「SBTi」は、科学に則ったGHG排出量の削減目標設定を民間企業や各種団体に対して求めるイニシアチブで、国際的環境NGOのCDP、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)、UNGC(国連グローバル・コンパクト)の4団体により運営されており、パリ協定に適合したGHG排出削減目標を設定してSBT認定を付与している。

コーセーグループは昨年より、2030年に28%から35%へ改定し、パリ協定に適合したGHG排出削減目標を設定してSBT認定を付与している。

今回のSBT認定では、同プランで定める自社が使用するエネルギーや電力を由来とするGHG排出量(SCOPE1)の削減目標を、従来の28%から35%へ改定し、パリ協定に適合したGHG排出削減目標を設定してSBT認定を付与している。

コーセーグループは昨年より、2030年に28%から35%へ改定し、パリ協定に適合したGHG排出削減目標を設定してSBT認定を付与している。



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

2020

の削減目標を設定し、事業活動からバリューチェーン全体に至るまで幅広い視点でGHG排出量の削減に取り組んでいる。

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられております。本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。